

「(プログラム名称を記入) 参加報告書」

京都大学文学研究科修士2年 (氏名) 五十嵐涼介

以下では、今回の派遣プログラムについて①プログラム内容、②学習成果について、③海外での経験について、④進路への影響という四つの観点から簡潔に報告する。

① プログラム内容

今回の派遣プログラムは大きくわけて二つのイベントがあった。一つは計6回におよぶ心の哲学セミナーであり(報告者が出席したのは4回まで)、もう一つは京都大学、台湾の国立政治大学、およびシンガポール国立大学が合同で開催しているカンファレンスである。セミナーについては、事前に合同で予習を行うなど準備をしてから臨んだ。結果として多くの質問・議論ができ、非常に有意義なものとなった。カンファレンスは大学院生が主に発表を行ったが、仏教をはじめとしてインド哲学・中国哲学など、アジアに関する様々な分野についての発表が行われた。

② 学習成果について

今回の派遣では、現地の教員の方々による心の哲学についてのリレー講義を受けることができ、当該分野について非常に多くのことを学ぶことができた。また、二日間におよぶアジア哲学についてのカンファレンスに出席したが、こちらでは様々な観点からの発表を聞くことができ、新たな知見を得た。発表者の多くが大学院生であったことから、非常に刺激をうけることができた。

③ 海外での経験について

シンガポールには二回目の派遣となったが、前回の派遣で知り合った学生とも再会することができた。また、現地の哲学科の大学院生に交流会を開いていただき、同じ分野を専攻する仲間として国際的な親睦を深めることができた。シンガポールという国についての印象は、前回も感じたことではあるが、非常に国際色が豊かであることである。さらに、今まさに経済発展のさなかにいることによる活気・熱気も感じ取ることができた。このように日本とは様々な面を見ることができたことは大きな収穫であったと思われる。

④ 進路への影響

プログラム内容はもとより、現地の学生と交流ができたことで、自らの研究を国際的に発信していくことに対するモチベーションを新たにした。

以上である。昨年度の派遣と同様今年度の派遣でも得るものが非常に多かった。来年度同様のプログラムがあるならば、また是非応募したいと考えている。